



本資料は、米国アッヴィ社が2020年10月30日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2020年11月9日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2020年11月9日

アッヴィ、2020年第3四半期の業績を発表

- 第3四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、1.29ドルでした。調整後希薄化後EPSは、2.83ドルでした。
- 第3四半期の売上高は、報告ベースで52.1%増のGAAPベースで129億200万ドルでした。調整後の売上高は、128億8,200万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで14.8%増、営業ベースで15.0%増の57億9,000万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、7.7%増の41億8,900万ドルで、米国外ではバイオンミラーの影響により、報告ベースで9.3%減、営業ベースで8.0%減の9億5,100万ドルでした。スキリージ®の売上高は、4億3,500万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、2億1,500万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで16.5%増、営業ベースで16.4%増の17億2,200万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社が承認、発売)の売上高は9.0%増の13億7,000万ドルで、その内訳は、米国内が11億1,900万ドル、米国外が2億5,100万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、3億5,200万ドルでした。
- エステティクス領域の第3四半期の売上高は、9億6,700万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、3億9,300万ドルでした。
- 神経疾患領域の第3四半期の売上高は、12億4,900万ドルでした。ボトックス・セラピューティックの売上高は、5億2,300万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、3億5,800万ドルでした。
- 2020年におけるGAAPベースの希薄化後EPSの見通しは、4.12~4.22ドルから3.89~3.91ドルへ修正します。2020年における調整後希薄化後EPSの見通しは、アラガンビジネスからの12%の年間純増額を反映して10.35~10.45ドルから10.47ドル~10.49ドルへ修正します。ガイダンスには、2020年5月8日から2020年12月31日までのアラガンの業績が含まれます。



- 2021年2月の配当より、10.2%の増配を実施することを発表します。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2020年10月30日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2020年第3四半期(2020年9月30日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「当社のビジネスは引き続き長期的にみて非常に良い状況にあります。スキリージ®、リンヴォック®、Ubrelyv(日本で未承認・未発売)など成長製品は予想を上回り、エステティクス領域はV時回復を示し、また血液腫瘍領域では、二桁成長を達成しています。そして、多くの有望な後期開発プログラムが順調に進んでいます。私たちはまた、アラガンとの統合により、効果的にシナジー効果を高めビジネスを成長させています」

第3四半期の業績

- GAPP ベースの売上高は、報告ベースで 52.1%増の 129 億 200 万ドルでした。調整後の売上高は、比較可能な営業ベースで 4.1%増の 128 億 8,200 万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで 14.8%増、営業ベースで 15.0%増の 57 億 9,000 万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで 4.1%増、営業ベースで 4.4%増の 51 億 4,000 万ドルでした。米国での売上高は、7.7%増の 41 億 8,900 万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで 9.3%減、営業ベースで 8.0%減の 9 億 5,100 万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、4 億 3,500 万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、2 億 1,500 万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで 16.5%増、営業ベースで 16.4%増の 17 億 2,200 万ドルでした。
 - イムブルピカ®の売上高は 9.0%増の 13 億 7,000 万ドルで、その内訳は、米国内が 11 億 1,900 万ドル、米国外が 2 億 5,100 万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで 59.0%増、営業ベースで 58.3%増の 3 億 5,200 万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、比較可能な営業ベースで 3.1%減の 9 億 6,700 万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、比較可能な営業ベースで 2.2%減の、3 億 9,300 万ドルでした。
- 神経疾患領域の売上高は、報告ベースで 100.0%増、比較可能な営業ベースで 12.1%増の 12 億 4,900 万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社が販売)の売上高は、比較可能な営業ベースで 1.8%減の 5 億 2,300 万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、比較可能な営業ベースで 48.4%増の 3 億 5,800 万ドルでした。
 - Ubrelyv(日本で未承認・未発売)の売上高は、3,800 万ドルでした。



- GAAP ベースで、売上総利益率は 60.9%でした。調整後売上総利益率は 81.7%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、22.1%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は 21.1%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、13.2%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、11.7%でした。
- GAAP ベースで、第 3 四半期の営業利益率は 25.2%でした。調整後営業利益率は 48.8%でした。
- GAAP ベースで、純支払利息は 6 億 2,000 万ドルでした。
- GAAP ベースの第 3 四半期の税率は、7.5%でした。調整後の税率は、11.7%でした。
- 第 3 四半期の希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 1.29ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.83ドルでした。

注意：「比較可能な営業ベース(Operational)」の対比は、アラガンの当四半期と前年同期の比較が含まれます。アラガンの統合手続きの完了は 2020 年 5 月 8 日ですが、2019 年 1 月 1 日に統合したものとして、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。詳細については、主要製品売上高の表をご参照ください。「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

<https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-third-quarter-2020-financial-results.htm>

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and



uncertainties, including the impact of the COVID-19 pandemic on AbbVie's operations, results and financial results, that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, failure to realize the expected benefits of the Allergan acquisition, failure to promptly and effectively integrate Allergan's businesses, significant transaction costs and/or unknown or inestimable liabilities, potential litigation associated with the Allergan acquisition, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2019 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission (SEC). AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.